



全史料協50周年記念事業検討チーム
— 進捗報告と意見交換 —

2025/08/23 総会イベント

報告担当：森本祥子

1 検討チームメンバー

太田富康 （元埼玉県立文書館）

金原祐樹 （徳島県立文書館）

高木秀彰 （寒川文書館）

福嶋紀子 （松本大学）

森本祥子 （東京大学文書館、全史料協副会長／50周年記念事業検討チーム座長）

<事務局>

辻川 敦（全史料協会会長）、西木浩一、松岡弘之

2 これまでの検討状況

The screenshot shows the homepage of the Japan Society of Archives Institutions (JSAI). The header includes the JSAI logo and the text 'THE JAPAN SOCIETY OF ARCHIVES INSTITUTIONS 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 全史料協'. A large banner on the left features a photograph of damaged documents and the text '東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。こうした自然災害は、その後も各地で発生し、復興の道には多くの困難がともないまま、当協議会は歴史資料の救出を中心に、他団体と連携し、衆知をあつめ、支援に取り組んでいます。 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会'.

The main content area is organized into several columns of links:

- 全史料協とは**
- 組織と規約**
- 入会のご案内**
- 委員会等担当事務局**
- 全国大会**
- 総会**
- 委員会等の報告**
 - 役員会等
 - 副会長事務局
 - 大会・研修委員会
 - 調査・研究委員会
 - 広報・広聴委員会
 - 中長期的な組織再編のあり方に関する検討チーム
 - 全史料協50周年記念事業検討チーム** (highlighted with a red box)
- 刊行物**
 - 会誌『記録と史料』
 - 会報
 - 公文書館機能ガイドブック
 - その他の刊行物
 - 検索はこちらから
- 資料ふあいる**
 - 資料ファイル
 - 関連法へのリンク
 - 実務情報リンクバンク
- 機関会員名簿**
 - 機関会員名簿&リンク
 - 機関会員定期刊行物情報コーナー
- リンク集**
- 情報掲示板**
 - 皆様から寄せられたさまざまな情報をいち早くお知らせするコーナーです。
- ご意見ご要望**
 - 全史料協に対するご意見・ご要望はこちらまで。
- 部会の報告**
 - 関東部会
 - 近畿部会

At the bottom left, there is a green button labeled '文書等の被災状況・レスキュー活動'.

検討会の記録など掲載

2 これまでの検討状況

第1回 2024年10月13日

1. これまでの周年事業のとり組み整理

| | | 周年事業 | 前後の取り組み |
|------|-------|--------------------------|---|
| 1976 | 昭和 51 | 組織発足 | |
| 1986 | 昭和 61 | | 国に対して文書館法制定要望 |
| 1996 | 平成 8 | 『日本の文書館運動－全史料協の 20 年－』刊行 | 阪神・淡路大震災被災資料保全活動 組織再編、5 委員会体制 |
| 2006 | 平成 18 | | 2003 年『日本のアーカイブズ論』刊行 2004 年 第 30 回山口大会 テーマ「全史料協の 30 年」 |
| 2016 | 平成 28 | | |
| 2026 | 令和 8 | | 2024 年 第 50 回仙台大会 記念座談会 開催 |

2 これまでの検討状況

第1回 2024年10月13日

2. 前提なしのブレインストーミング、自由な意見交換



企画案3件

- (1) 全史料協アーカイブズの整備
- (2) 50周年記念誌編さん
- (3) AtoM 活用による機関情報カタログ、目録ポータル構築
← 『JSAIデータブック '94』

2 これまでの検討状況

【参考】『JSAIデータブック '94』

第1章 利用案内

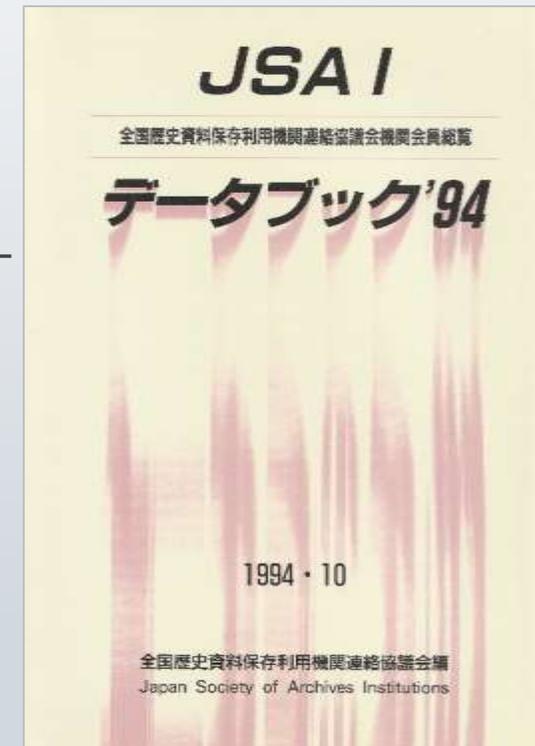
全史料協機関会員へのアンケートを元に、以下の情報を掲載：

所在地、設置主体、専用建物の有無、開館時間、休館日、利用情報（閲覧サービス有無、利用資格有無など）、地図、所蔵資料概要

第2章 統計

第1章の内容含めてアンケート結果を統計処理してグラフ・表で表示

機関名五十音索引



2 これまでの検討状況

【参考】『日本の文書館運動：全史料協の20年』

第I部 戦後史料保存運動と全史料協の20年

第1章 戦後史料保存運動の歩み

第2章 全史料協20年の歩み

第3章 各地の史料保存の取組

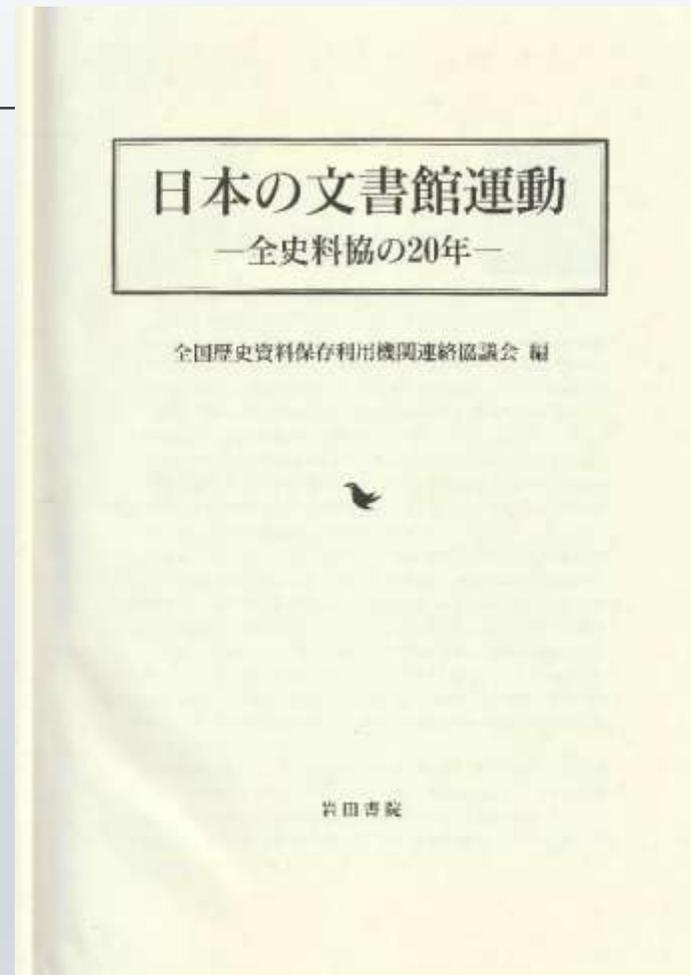
第4章 史料保存の国際協力

第II部 全史料協の未来

第1章 座談会：全史料協の未来を語る

第2章 全史料協の未来を拓く

第III部 資料



2 これまでの検討状況

【参考】

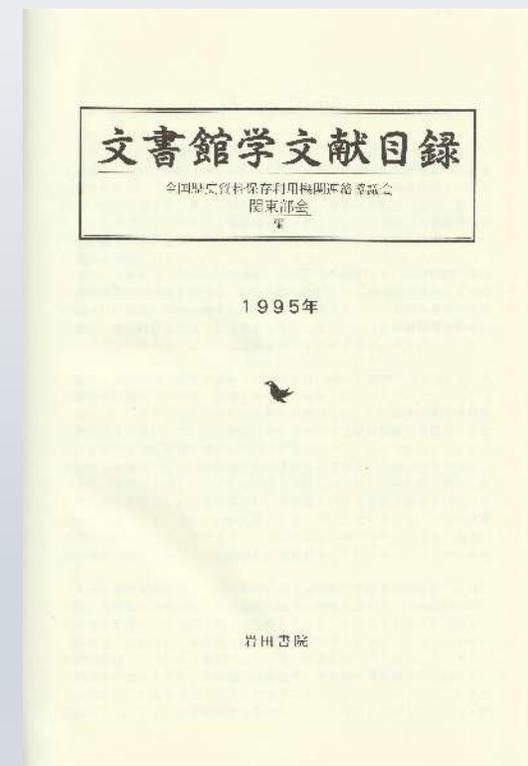
『日本のアーカイブズ論』

主立った論文を再録

『文書館学文献目録』

主立った書籍・論文の目録

※ 関東部会編、1995年



2 これまでの検討状況

第2回 2025年2月12日

1. 現状認識と課題整理

機関会員中心の事業推進やコミットは困難。個人中心で実施するほかない

2. 企画案について

(1) 全史料協アーカイブズの整備 → 実施しない／優先度低い

∵ 会全体の文書管理方針と関わり単独事業にそぐわない、どこで誰が作業するかという問題

(2) 50周年記念誌編さん

振り返り+これからの展望、として考える

(3) AtoM 活用による機関情報カタログ、目録ポータル構築

機関会員以外も情報搭載することで広がりを持たせる

(4) 50周年記念ウェブサイト構築 → 最終的には

活動期間中の情報蓄積・発信、(2)の役割を持たせることも可か

3 本日の目的

- ✓ 50周年記念事業は、会員全体にとって意義のあるものにする必要がある
- ✓ 検討チームメンバーの整理した企画案を元に、意義があり、かつ、取組可能な企画はなにか、自由に発言いただく
- ✓ 本日の意見をふまえて、企画実施に向けて動く